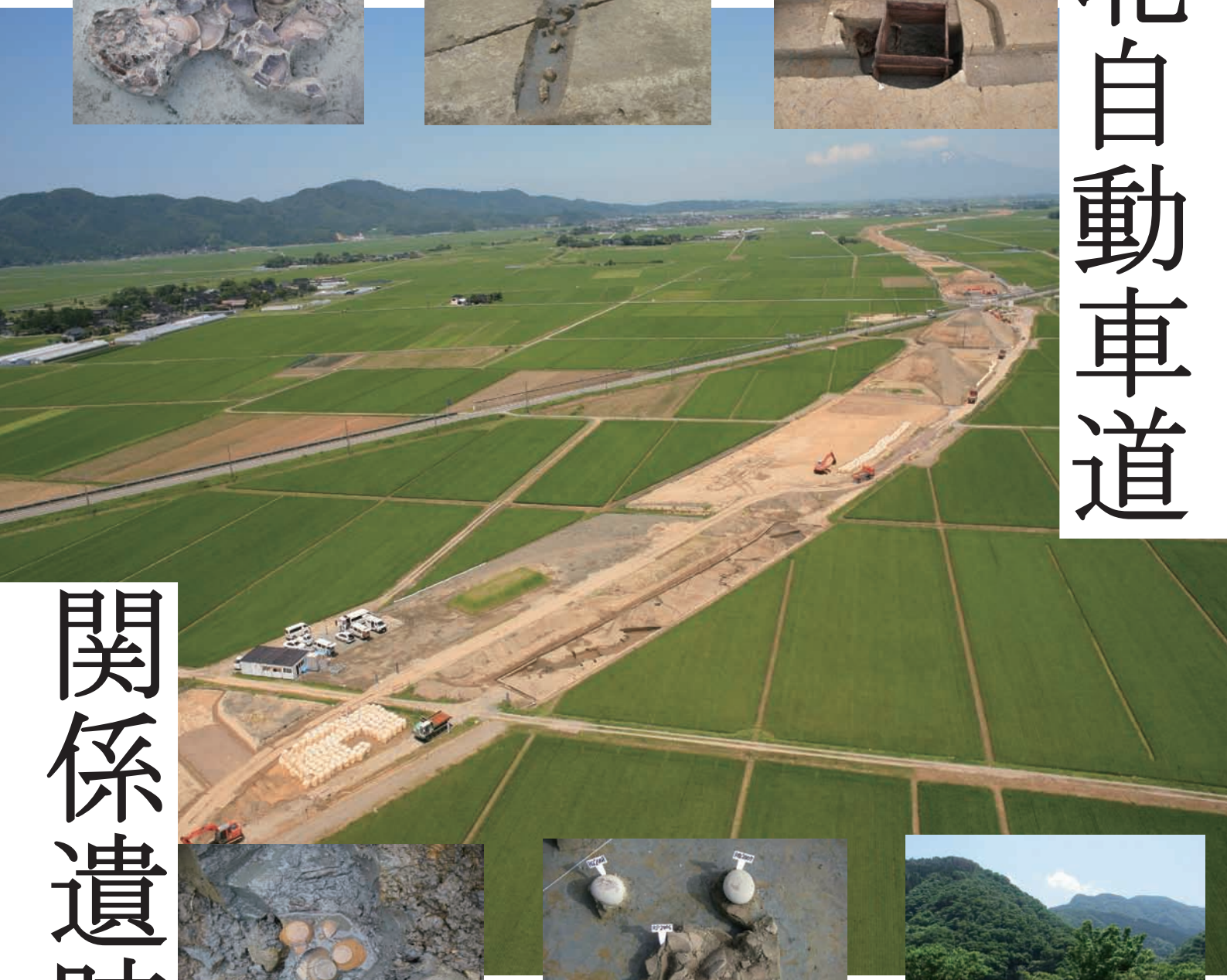
平成19年度

日本海沿岸東北自動車道



関係遺跡調査報告会

平成20年3月2日（日）

出羽庄内国際村ホール

●主催　財団法人山形県埋蔵文化財センター

●共催　鶴岡市教育委員会

●事業者　国土交通省酒田河川国道事務所

平成 19 年度　日本海沿岸東北自動車道関係遺跡　調査報告会

報告会　次第

開会　１３：００

主催者挨拶

調査報告

1　川内袋遺跡

2　行司免遺跡

3　岩崎遺跡

4　玉作１遺跡

5　興屋川原遺跡

6　矢馳Ａ遺跡

質疑応答

閉会　１５：００

目　次

次第・関係遺跡一覧…… 2

日本海沿岸東北自動車道関係遺跡位置図…… 3

川内袋遺跡…… 4

行司免遺跡…… 5

岩崎遺跡…… 6

玉作１遺跡…… 7

興屋川原遺跡…… 8

矢馳Ａ遺跡 …… 9

南田遺跡……10

玉作２遺跡……10

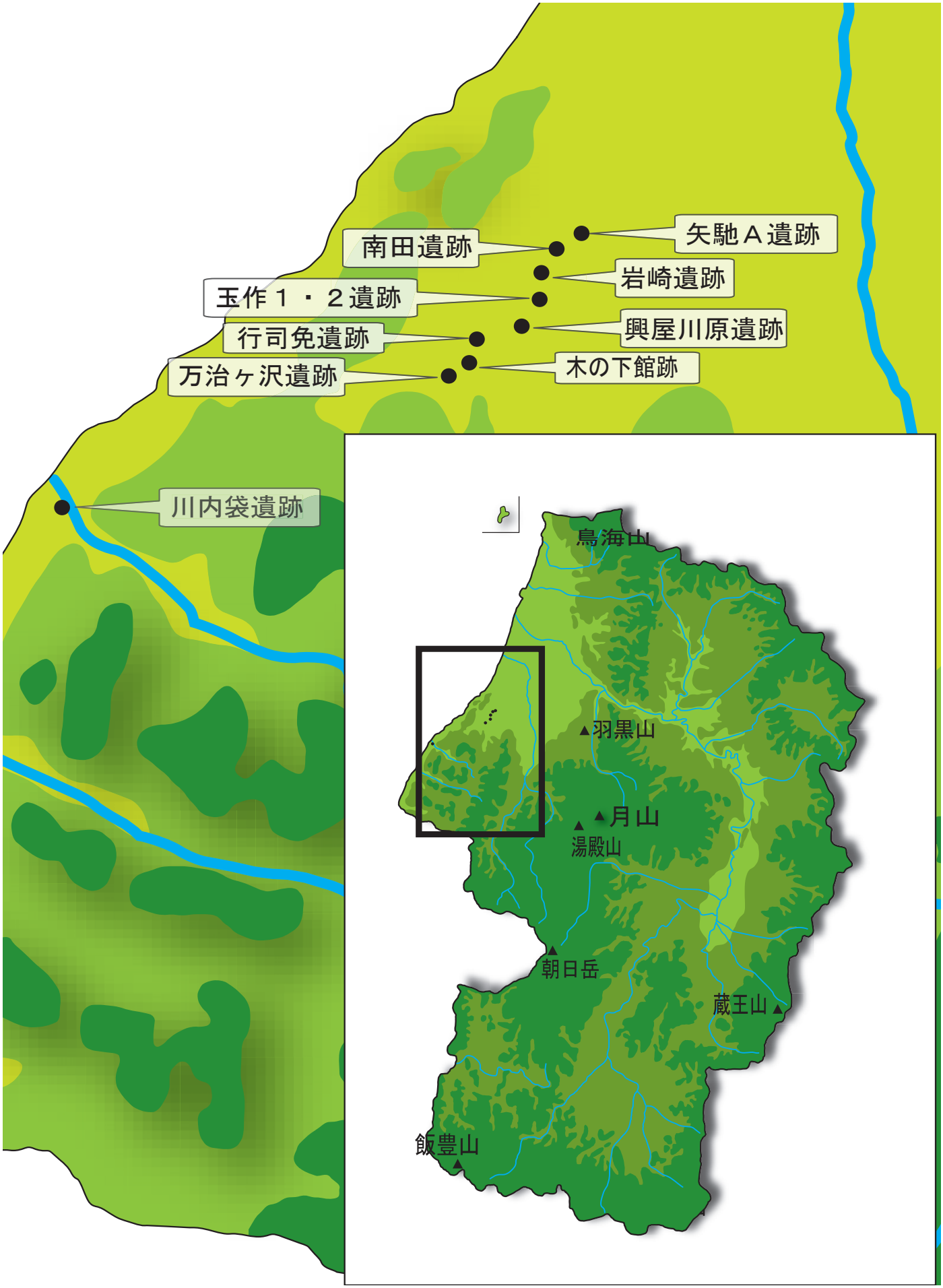
木の下館跡……11

万治ヶ沢遺跡……11

日本海沿岸東北自動車道関係遺跡　一覧

	遺跡名	所在地	時代	種別	現地調査年度
1	矢馳Ａ遺跡	鶴岡市矢馳字下矢馳	古墳・奈良・平安・中世	集落	平成 17 ～ 19 年度
2	南田遺跡	鶴岡市清水新田字南田	古墳・奈良・平安	集落	平成 18 年度
3	岩崎遺跡	鶴岡市下清水字岩崎	古墳・奈良・平安	集落 官衙関連	平成 18 ～ 19 年度
4	玉作１遺跡	鶴岡市中清水字玉作	弥生・古墳・奈良・平安	集落	平成 17 ～ 19 年度
5	玉作２遺跡	鶴岡市中清水字玉作	平安	集落	平成 16 ～ 17 年度
6	興屋川原遺跡	鶴岡市田川字興屋川原	古墳・平安	集落	平成 16 ～ 19 年度
7	行司免遺跡	鶴岡市水沢字行司免	奈良・平安	墓地 祭祀場	平成 16 ～ 19 年度
8	木の下館跡	鶴岡市水沢字水京他	旧石器・縄文・中世・近世	城館	平成 16 ～ 18 年度
9	万治ヶ沢遺跡	鶴岡市矢引字万治ヶ沢	縄文・平安	集落 生産場	平成 16 ～ 17 年度
10	川内袋遺跡	鶴岡市五十川字川内袋	縄文	集落 狩猟場	平成 19 年度

日本海沿岸東北自動車道関係遺跡　位置図



川内袋遺跡（かわうちぶくろ）　―縄文時代の住居と狩猟場―

鶴　岡　市

川内袋遺跡は、出羽山地から日本海に注ぐ五十川（いらがわ）右岸の舌状に張り出す丘陵端部に立地します。五十川地域では以前から縄文土器や石器が出土する所として知られていました。

A区では縄文時代前期の竪穴住居跡4軒と土坑、柱穴、ピット、縄文時代後期と見られる土坑1基が見つかっています。竪穴住居跡の1軒では床（土間）が3回作り変えられているものもあり、その住居の炉には縄文土器が埋められていました。他には地面で直接火をたく炉（地床炉）も見つかっています。

B・C区を上空から撮影しました。

また、高台（B・C区）から崩れてきたと見られる多量の土砂と大小の礫群(石)が多数見つかっています。

B・C区では大型住居跡、フラスコ状貯蔵穴、陥穴（おとしあな）、柱穴、ピット（小穴）が多数検出されました。なかには竪穴住居跡の上に土砂や土器、石器が捨てられて埋まった部分に陥穴が掘り込まれている例も見つかりました。土器のほとんどは縄文時代前期の今から約5,500～5,000年前の深鉢型土器です。石器は尖頭器（せんとうき）、石匙（いしさじ）、石篦（いしべら）、石鏃（せきぞく）、磨製石斧（ませいせきふ）、石錘（せきすい）、石皿、磨石（すりいし）という生活や狩猟の道具、また装身具としてけつ状耳飾りがあります。他に2点だけですが奈良時代～平安時代と考えられる須恵器（すえき）の破片も出土しています。

出土遺物は466箱を数えました。川内袋遺跡の特徴として、大量に出土した縄文土器・石器の遺物量に比べ、発見された縄文時代の住居跡などが少ないことがあげられます。その理由はいくつか考えられます。それは遺跡の西側が30年ほど前に水田に開墾されたこと、この遺跡の所在地がかなり以前（縄文時代？）から地滑り地帯であること、或いは今回調査した場所の周辺に縄文時代の村の中心部があった、などの理由が考えられます。

（齋藤主税）

A区で縄文土器や石器が見つかった様子です。

行司免遺跡（ぎょうじめん）　―古代人が眠る場所―

鶴　岡　市

鶴岡市水沢に所在する、奈良・平安時代の遺跡です。平成 16 年から 19 年にかけて、4 回の調査が行われました。

おもな調査成果としては、木棺墓（もっかんぼ）5 基、土壙墓（どこうぼ）3 基、火葬に関わる遺構 1 基が見つかりました。このことから、行司免遺跡は墓地であることがわかりました。

行司免遺跡から出土している土器は、通常の集落跡から出土しているものとは様子が異なります。食器や保存容器として使われるはずの土器が、焼けて変色していたり、灯明皿（とうみょうざら）として使用されているという特徴があります。

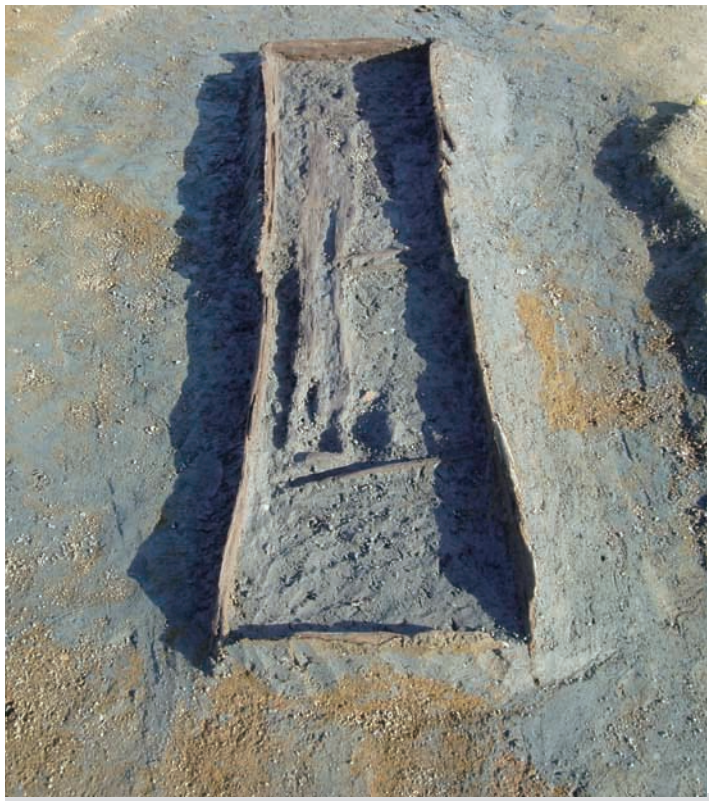
土器以外には、加工されたような石や、儀式で使用されたと考えられる木製品なども見つかっており、祭祀（さいし）の場所として機能していたことを裏付けるような遺物が出土しています。

このことから、行司免遺跡では、葬送儀礼も行っていた可能性があります。

（三浦勝美）

火葬に関わる遺構です。炭が一面にひろがり、焼けた木もいっしょに出土しました。

溝跡からは、土器がまとまって見つかっています。



出土した木棺墓のうちの１つです。棺の木枠がそのままの形で残っていました。

岩崎遺跡（いわさき）　－古代の役所か？－

鶴　岡　市

鶴岡市下清水字岩崎にある古墳時代・奈良時代・平安時代の遺跡です。

調査は平成 18・19 年の２ヵ年にわたり行いました。古墳時代の竪穴住居、奈良・平安時代の掘立柱建物、倉庫、井戸、塀などが見つかりました。

奈良時代のものとしては、掘立柱建物（右上の写真）と円面硯（えんめんけん）と呼ばれる硯（すずり）が見つかりました。８世紀後半頃のものです。円面硯の出土は珍しく、庄内地方ではほかに６つの遺跡から出土しているのみです。

平安時代では、９～ 10 世紀に属する倉庫、塀、井戸、風字硯（ふうじけん）と呼ばれる硯などが見つかっています。倉庫（左下の写真）は２棟見つかりました。いずれも２×２間の総柱造りです。柱の根元部分が残っていた柱穴もあります。また、これらの建物の南側に、塀と考えられる掘立柱列が見つかりました。この塀より南側には遺構はほとんどありません。塀により内と外が明確に区分されていたといえます。

井戸は９基見つかりました。井戸枠が残っていたものは５基あります。縦板を並べたものが２基（右下の写真）、横板を組んだものが２基、丸太をくり貫き筒状にしたものを用いたものが１基です。井戸の中からは土器のほかに斎串（いぐし）や人形（ひとがた）と呼ばれる木製品が出土しました。これらは水にかかわる祭祀（さいし）に用いられたと考えられています。

掘立柱建物、倉庫、塀、円面硯、風字硯などが見つかったことから、一般の集落とは考えにくく、官衙（かんが）（当時の役所）的な施設がここに営まれていたといえそうです。

（水戸部秀樹）

掘立柱建物と塀

平安時代の倉庫

縦板を枠に使った井戸

玉作（たまつくり）１遺跡　－玉造りの工房跡？－

鶴　岡　市

遺跡は、玉造りの工房があったと考えられる古墳時代の集落です。３回にわたる調査により、掘立柱建物、河川、井戸、溝、土坑、柱穴などが見つかりました。

掘立柱建物は、２間×２間の大きさで、埋まった河川の上に建てられています。当時使われていた柱を年代測定にかけたところ、古墳時代のもので、河川はそれ以前に流れていたものであることが判りました。また、河川からは遺物が全く見つかりませんでした。円形の土坑からは古墳時代の土器がまとまって見つかりました。南北に走る溝は、幅 70 ～ 90cm、深さ 15 ～ 25cm と浅く、投げ捨てられた古墳時代の土器が見つかりました。溝のすぐ隣にある井戸は、円形で深さ２m以上掘られていました。

遺物は、古墳時代の土師器、中世・近世の陶磁器、貨幣、木製品、管玉（くだたま）の未成品（みせいひん）などが見つかっています。製作途中で出た碧玉（へきぎょく）製などの管玉未成品が出土したことから、当地域で玉造りが行われていた可能性があります。また、玉作という地名も遺跡の性格を示すようです。これまでの調査では、製作した場所である工房跡やその痕跡を見つけることはできませんでした。しかし、庄内地方でこれらの石材が見つかることは珍しく、原産地を特定することにより、土器以外の観点から他の地域との交流を探るのに重要なものになると思われます。　（深澤　篤）

倉庫に使用したと思われる建物

溝から古墳時代の土器が見つかりました。

管玉の未成品　碧玉

管玉の未成品　鉄石英

興屋川原遺跡（こうやがわら）　－整然と並ぶ平安時代の大型建物－

鶴　岡　市

興屋川原遺跡は、鶴岡市の田川地区と上清水地区の境に所在する古墳時代、奈良・平安時代の遺跡です。平成16年に予備調査で遺跡の規模や時代などのデータを集め、17年から19年まで本調査が行われました。古墳時代では、竪穴住居跡（たてあなじゅうきょ）が1棟、河川跡、溝跡、井戸跡、土坑などが見つかりました。土器の形式から、概ね5世紀頃の古墳時代中期の時期とみられます。土器は地元で制作された土師器のほか、畿内などから搬入された須恵器も比較的多く出土しています。また、子持勾玉（こもちまがたま）（勾玉に小さな勾玉状の突起物がついたもの）やメノウ製の勾玉も出土しています。また、竪穴住居跡からは、赤い顔料が付着した丸い石が2個出土しました。赤色の鉱物をすりつぶして顔料を制作していた工房だったのかもしれません。これらのことから、この建物は、地域の有力者と関係が深い施設や工房だったのかもしれません。

子持勾玉（古墳時代）

奈良時代末から平安時代初めにかけては、川跡と、掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）が数棟ずつ整然と並んでいた様子が検出されました。川跡は2本重複しており、9世紀と10世紀で流路が異なっていたことがわかりました。また、川底からは土器のほか、農具や食器などの木製品も多量に出土しました。他に鉄滓（てつさい）やふいごの羽口も多数出土し、近くには大量の焼土を伴う鍛冶遺構とみられるものもありました。これらのことから、奈良・平安時代には、一般の集落ではなく、何らかの公的性格を帯びた施設であった可能性が高いと思われます。

（齋藤　健）

河川跡出土の木製曲げ物、皿、須恵器杯

古墳時代の壷と顔料が付着した石が出土しました。

整然と並んだ大型の掘立柱建物群

矢馳（やばせ）A遺跡　―甦（よみがえ）る古代の大集落！―

鶴　岡　市

矢馳A遺跡は昭和62年に第1次調査が行われ、その後平成17年から19年にかけて第2～4次調査が行われました。

6万㎡にわたる広大な遺跡の中央部を、南北に横切るように2万㎡発掘調査しました。その結果、遺跡の北側では奈良・平安時代の遺構、中央では中世の遺構が検出されました。また、南側には古墳時代の大集落が存在したことが明らかになっています。

古墳時代の集落を掘る

古墳時代

北西方向に流れる3本の川の跡が見つかりました。自然に埋まった土の中から、坏（つき）・高坏（たかつき）・甕（かめ）などの土師器（はじき）がたくさん出土しています。また、川の北東側には、約60cm下に炭の粒を多く含む層がありました。赤く焼けた土の広がりとともに、土師器の坏・高坏・甕・壺（つぼ）・甑（こしき）などがまとまって出土しました。川の跡から出土した土師器より、炭の層から出土した土師器のほうが古い時期の特徴をもっています。

古墳時代の川の跡から出土した土師器（はじき）

奈良時代

川と竪穴住居の跡が見つかりました。川の跡からは、須恵器（すえき）の坏や木製の椀と箸が見つかりました。竪穴住居の跡からは、文字が刻まれた須恵器の坏や紡錘車（ぼうすいしゃ）が出土しています。

平安時代

川の跡が見つかりました。須恵器の坏や蓋（ふた）が出土しており、墨で字が書かれているものもありました。

中世

館（やかた）を区画していた溝が見つかりました。範囲は約50m四方です。この区画溝の内部や周囲で井戸が見つかっています。木枠が残っていたり、中から曲物や斎串（いぐし）（まじないの道具）が出土した井戸もありました。

その他

時代は不明ですが、調査区の南側で板を一列に並べて打ち込んだ板材列が見つかっています。　（山内七恵）

南田（みなみだ）遺跡　－川跡から土器が出土－　鶴岡市

鶴岡市清水新田字南田にある、古墳時代・奈良時代・平安時代の遺跡です。

平成18年に3,400平方㎡を調査しました。井戸・土坑・溝・柱穴・川跡などが見つかりましたが、住居はありませんでした。よって住居域からは、やや離れた個所であると考えられます。遺跡の中心は調査区の西側になると予想されます。

写真の川跡からは、奈良時代の中頃から後半（8世紀後半）の土器が多く出土しました。8世紀初頭では、出羽国の中心となる役所は庄内平野にありましたが、8世紀後半には現在の秋田市へと北進していました。当時、朝廷は東北地方をその勢力下に治めようと順次拠点を北進させていました。つまり、この頃には庄内平野は朝廷の勢力下に入っていたといえます。遺跡から出土した土器の大半が、朝廷から影響を受けたことを示す須恵器と呼ばれる窯（かま）で焼き上げたものだったことからも、その影響が読み取れます。（水戸部秀樹）

川跡から奈良時代の土器が多数出土

玉作（たまつくり）2遺跡　－古墳時代玉の材料出土－　鶴岡市

玉作2遺跡は、鶴岡市中清水字玉作にある、古墳時代と奈良・平安時代の遺跡です。

平成17年度の調査では、古墳時代は遺構を確認することはできませんでしたが、土師器や玉の材料となる石が1点出土しました。隣接する玉作1遺跡からは、多数の玉の材料の石材や管玉の未製品が見つかっており、周辺で玉製品を造っていたようです。

平安時代では、杭や矢板を打ち込んだり組み合わせて造った、木組みを伴う川跡を確認することができました。また、その川跡からは、横瓶（よこべい）という特殊な用途で用いたとみられる須恵器の容器の他、皿やヘラなどの木製品も出土しています。川跡からは火山灰の堆積層を確認しましたが、これを分析したころ、歴史書『扶桑略記（ふそうりゃっき）』に記載されている、915年に東北地方で降り注いだとみられる十和田火山の噴火による火山灰でした。河川跡から出土した土器の形を見ると、9世紀後半より古いと見られることから、河川跡は9世紀末から10世紀前半にかけて廃絶し、湿地化していたとみられます。また、江戸時代の用水路も見つかり、江戸時代の国産陶磁器だけでなく、室町時代の国産、中国産陶磁器も出土しました。（齋藤　健）

平安時代の杭や矢板による木組み

木の下館跡（きのしたたてあと）　－中世から戦国の山城－　鶴岡市

遺跡は、鶴岡市水沢地の京田山（標高 65 m）に立地し、戦国期に築城されたと推定されている山城です。２回の調査により、古道、曲輪（くるわ）、竪穴住居、炭窯（すみがま）、土坑などが見つかりました。

古道は、調査区東端から山を登り、南の主体部に通じています。途中の斜面に土坑が３基あり、３つの内の真ん中から、一体分の馬の骨が見つかりました。この性格については検討していく必要があります。7 段の曲輪は、本丸へ行く途中にあり、旧地形である山の形を利用し、斜面を削って構築しています。本丸を防御する上で重要な役割を果たしていたと思われます。

曲輪の上段には竪穴住居が、中段には炭窯があり、山城と同じ時代であるかは、遺物の出土量が少ないため不明です。

出土した遺物には、旧石器時代の石器、縄文時代の土器、中世～近世の陶磁器片・古銭などがあります。　（佐藤正俊）

7 段の曲輪（くるわ）

万治ヶ沢遺跡（まんじがさわ）　－平安時代の土器生産遺跡－　鶴岡市

遺跡は熊野長峰（くまのながみね）の北側斜面のなだらかな尾根上にあり、Ａ地点とＢ地点の２つの地点がありました。

Ａ地点は、北から北東方向に庄内平野を見渡せる平らな場所にあり、縄文土器や石器のほかに、炭を焼くために穴を掘り込んだ平安時代の小さな円い窯（かま）が見つかりました。

Ｂ地点は沢を囲むくぼ地にあり、平安時代（9 世紀後半～ 10 世紀前半）の土器を焼いた土坑が約 20 基と、炭を焼いた大きな窯も３基見つかりました。赤焼土器を焼いた土坑は２～３基の土坑がまとまって１つのグループになっていました。また、製鉄のときにでる鉄滓（てつさい）や、炭を焼く大きな窯も見つかったことから、この付近では製鉄が行われていた可能性が考えられます。

このことから、平安時代の万治ヶ沢遺跡周辺は、土器生産や鉄の生産に関わる一大生産地だった可能性があります。（鈴木良仁）

Ｂ地点の中央部
写真のように赤焼土器を焼いた土坑が、斜面と平地の交わる部分に集中して見つかりました。

埋蔵文化財センターの仕事紹介 ―整理作業を中心に―

発 掘 調 査

建物建設や道路整備などの開発にかかった遺跡について、
発掘調査を実施し、遺跡を記録保存します。

発掘作業

遺跡に調査事務所を置き、発掘調査を行います。

整理作業

調査の出土品・記録を埋文センターに持ち帰り、
報告書にまとめます。

①洗浄

出土品についた汚れを、水で洗います。

②復元

割れて出土した土器を、もとの形に組み立てます。

③実測

出土品を測り、図面として記録します。

④撮影

出土品を撮影し、写真として記録します。

⑤保存処理

木製品や金属製品は、傷まないように科学的な処理を行います。

⑥報告書

調査の記録を本にまとめ刊行します。報告書は、図書館や大学で公開・活用されています。

研究・普及

発掘調査の内容を研究し、その成果を公開します。埋蔵文化財の情報を
県民に提供し、文化財に対する理解を広めるように努めています。

小学生のセンター見学

小学校への出前授業

庄内空港の企画展示

平成 19 年度日本海沿岸東北自動車道関係遺跡調査報告会資料
発　行　平成 20 年 3 月 2 日
財団法人山形県埋蔵文化財センター

〒 999-3161 山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号
TEL　023-672-5301　　FAX　023-672-5586
URL　http://www.yamagatamaibun.or.jp